

2016/5/22 長良川下流域環境観察会報告

参加者12名。

真夏の日差しでしたが、乾いた風でさわやかさも感じられました。いつも測定している河口から4km地点（河口堰は5.4km）で川底の土砂採取をしました。水温はどちらも20.0℃。

揖斐川は、砂、酸化還元電位は+222mV 砂の中に小さいシジミが2個。最近個数が少なくなっているような気がしていましたが、地元の話ではこの2、3年揖斐川ではシジミ漁獲量が激減しているとのこと。

長良川は、ヘドロ。酸化還元電位は-227mVで、酸素で生きる生物は存在しません。



クロベンケイガニ



減り続ける長良川のヨシ



干潮時の揖斐川のヨシ原。カニの穴がいっぱい見える。



長良川のヨシ原は、オニグルミの林に変わっている。

午後は、ヨシハラに入っの観察。長良川では鳥の声は聞こえませんが、オニグルミなどの樹木の林になっている。3分間のカニ採取では6匹が採れました。でもどこから来ているのか？アカテガニ。

揖斐川では広いヨシハラが広がりオオヨシキリの鳴き声でにぎやか。カニは3分で約20匹のベンケイガニ、クロベンケイガニが獲れました。赤ちゃんが多い。

木曽三川公園の岸辺の状況。コンクリートの階段だけで何もいない長良川はパスして木曽川を観察しました。この日は干満差2mの日。

引き潮時の木曽川の岸辺は豊かな干潟が現れ、子ども連れのファミリーがたくさん遊んでいました。子どもは泥にまみれて楽しそうに遊んでいました。お父さんが持つバケツにはシジミ採りの成果がたくさん入ってました。岸辺の芝生スペースはバーベキューを囲む数十組の若者グループやファミリーでにぎわっていました。

(報告 武藤)



木曽川の干潟に広がるサンカクイ。長良川では姿を消した。